

関西唯一の現役活動弁士・井上陽一さん(78)と高砂市2のドキュメンタリー映画「井上陽一の世界」が完成した。無声映画の伝統を受け継ぎ、半世紀にわたり磨き続けた話芸を記録。10月2日に兵庫県立美術館(神戸市中央区脇浜海岸通1)でお披露目される。(田中真治)

活弁士の芸 映画に記録

「井上陽一の世界」の中で「忠臣蔵」を語る井上陽一さん

井上さんは姫路市生まれ。映画ファンが高じて映写技師となり、30歳ごろに見に行った無声映画上映会で、戦前からの弁士・浜星波さんの語り口に魅せられた。公演の追っかけにとまらず、弟子入りを志願。1979年に独立後は東京国際映画祭や京都映画祭などの大舞台も踏み、公演回数は542回に達する。

自主製作グループ「映画製作委員会」のプロデューサー・鶴久森典妙さん(67)と西宮市2は、91年に井上さんと出会って以来「活弁ライブ」を各地で企画。

今年、神戸で日本初の映画が公開されて120年となることにちなみ、井上さんの姿を映像に残そうと決めた。「井上さんの語りで古い映画が生きたものになる」と鶴久森さん。七五調でテンポよく畳

関西唯一の現役・高砂の井上陽一さん



来月2日 県立美術館で公開

今年、神戸で日本初の映画が公開されて120年となることにちなみ、井上さんの姿を映像に残そうと決めた。「井上さんの語りで古い映画が生きたものになる」と鶴久森さん。七五調でテンポよく畳

み掛けるチャンバラ映画「血煙高田の馬場」、に続き、大河内伝次郎製作委員会の30周年記念の文芸映画「滝の国次の巻」の活弁ライブも。陰の存在の私が

8690

500円。1、2日